

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月4日

【評価実施概要】

事業所番号	4271300297		
法人名	有限会社 ふるさと		
事業所名	グループホーム 古里の丘		
所在地	〒854-0124 長崎県諫早市神通町993-7 (電話)0957-28-6212		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット 日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年1月29日	評価確定日	平成21年2月26日

【情報提供票より】(平成21年 1月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 5 人 非常勤 2 人, 常勤換算 6.7 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	持込電気用品の電気代1,500円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(1月 5日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	1名	要介護2	3名
要介護3	3名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢 平均	81歳	最低	67歳
		最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤原医院・デンタルクリニックフジワラ
---------	--------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昨年12月に関連のホームや事務所の敷地内に移転をしている。自然に囲まれた静かな場所であり、ペアガラスと蓄熱暖房器を設置することで、ホーム内を常時一定の温度で管理し空調に配慮している。また、落成式は自治会長の協力を得て、地域の公民館を借り、地域に伝わる「猿浮立」の踊りを披露して頂き、歓迎を受けている。常に入居者の望む事・残存機能を活かしたケアを実践しており、様々な研修を可能な限り受講し、共有を図り、職員のスキルアップに努めている。広いリビングや周りの環境から入居者の顔色まで明るく見え、移転後あまり日数が経っていないが、入居者のゆったりとした姿から、生活への満足感が窺え、今後益々期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価は独自の考えを持たれ、地域に沿った項目へと希望されている。評価を第三者の意見を聞く機会と受け止め、評価後は改善計画シートを作成し、意見箱の設置・携帯コンロの準備等、出来ることから早急に取り組み、入居者が安心して生活できる為の努力が窺える。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票は、管理者を中心に、全職員が参加して長時間をかけて会議を開催し、項目に沿って実施状況を詳細に記述している。一人ひとりの取り組み状況の理解や、日頃のケアの原点に戻る事が出来成果が上がっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	今年度はホームの移転という一大イベントがあり、実際に何度もの運営推進会議まで至らないのが現状であった。7月(開催済み)・1月(訪問調査日の翌日)・3月(予定)が開催状況である。以前は公民館を会場として利用していたが、1月より、事務所が隣接しており、事務所の2階で開催することが出来る。今後は地域の変更により、地域の代表・開催場所の変更に伴い、定期的な会議の開催や充実した運営推進会議を期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	日頃より来訪時に話をする事で、思いの把握に努めている。今年度はホームの移転に伴い、文書を作成し家族説明会を開催することで、家族の不安への配慮を実施している。また、玄関に意見箱を設置し、傾聴の姿勢を表出している。また、2月に発行するホーム便りには気軽に意見や要望を受け入れる姿勢を載せている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	昨年12月に移転して現在の場所になり、歓待の意味を込め、落成式が盛大に行われ、地域の伝統的な「猿浮立」の踊りの披露を地域の公民館を利用して開催し、地域に溶け込む努力をし、町内会にも加入している。今後、関連の施設同様、積極的な関わりが期待できる。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「人権の尊重」「温もりと穏やかな笑顔の追求」「喜怒哀楽の共有」として、家庭的な環境と地域との共生による、安定した生活支援を根底に、常に理念に沿った支援に取り組んでいる。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と平行して、毎月の目標、1月は「手洗いうがいの徹底・外出時のマスク着用」、社是は「安全はすべてに優先する」を掲げ、楽しく毎日と一緒に過ごす雰囲気作りに努め、職員間で理念を共有し、日々のケアで実践している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年の12月に移転して現在の場所になり、歓待の意味を込め、落成式が盛大に行われ、地域の伝統的な「猿浮立」の踊りの披露を地域の公民館を利用して開催し、地域に溶け込む努力をし、町内会にも加入している。今後、関連の施設同様、積極的な関わりが期待できる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価には独自の考えを持たれ、第三者の意見を聞く機会と受け止めている。自己評価票は、管理者を中心に、全職員が参加して、項目に沿って実施状況を詳細に記述している。職員一人ひとりの取り組みやケアの原点に戻る事が出来成果が上がっている。評価後は改善計画シートを作成し、向上に向け尽力しており、入居者が安心して生活できる為の努力が窺える。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はホームの移転という一大イベントがあり、実際に定期的な運営推進会議まで至らないのが現状であった。7月・1月(訪問調査日の翌日)・3月(予定)が開催状況である。以前は公民館を会場として利用していたが、1月より、事務所が隣接しており、事務所2階ですることが出来、地域の代表も変わる事で、新たな会議に移行し、今後期待できる。		今年度はホームの移転で運営推進会議の開催が困難であったが、今後は地域の変更により、地域の代表・開催場所の変更に伴い、定期的な会議や充実した運営推進会議の開催を期待したい。

グループホーム 古里の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの社長がグループホーム連絡協議会の会長である事で、市町村の高齢介護課とは密接な関わりを持っている。また、入居者で公的扶助を利用している人がおり、保護課の方が来訪する事が多く、馴染みの関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月ホーム便り「ふるさと」を作成し、利用料や出納帳(領収書はコピーして添付)と一緒に、家族に定期的を送付している。また、病院受診や往診や状態変化等、必要に応じて家族に電話で連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より来訪時に話をする事で、思いの把握に努めている。今年度はホームの移転に伴い、文書を作成し家族説明会を開催することで、家族の不安への配慮を実施している。また、玄関に意見箱を設置し、傾聴の姿勢を表出している。2月のホーム便りには気軽に意見や要望を受け入れる姿勢を載せている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃から職員の意見を尊重し、何でも言い易い関係が確立している。入居者を中心に生活する事に努め、職員の異動や離職があっても、チームケアを取る事で、変わらない支援に努め、入居者のダメージは最小限に留めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育て、万が一離職になって他ホームに勤務した時には、当ホームで勤務していた事を誇れるように、日々学習を重ね、スキルアップに努めている。外部研修や内部研修を可能な限り取り入れ、知識と経験を大事にしている。また、資格取得にも協力的で、勉強会の開催等、職員の育成に尽力している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社長がグループホーム連絡協議会の会長である事から、研修会の参加をしており、グループワーク等で、他ホームの職員とは顔馴染みである。また、移転に伴い、他ホームからの訪問が多く、交流が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は見学を含め、本人の状態を話し、古里の丘の説明を受け、納得して決めている。入居後は、入居者の相性や状況に合わせ、コミュニケーションを密に取りながら、入居者間の関係の確立を中心に考え尽力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の大先輩であり、若い職員に「若い時に聞けなかつた」と伝え、入居者から、経験で培った様々な事(料理・裁縫・戦争の話し等)を教わっている。調査での訪問時には職員をゆったりと入居者が見守っているような関係が見受けられた。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から入居者と会話をする事で、思いや意向の把握に努め、残存機能をケアに活かしている。個人ファイルに様々な情報を収集している。利用者台帳には、総合的に記述する書式を作成しているが、記入が少なく、情報の共有には不十分である。		職員の異動や離職に伴い、入居者の情報の共有に繋がる、利用者台帳(生活歴・キーパーソン・希望・身体状況・既往症等)の詳細な記述を行い、変わらない介護に活用される事を期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別ノート・職員の気づきを基に、長期目標に本人の望ましい生活像を掲げ、サービス内容は入居者の生活を支える実践可能な計画を作成している。作成後は家族の了解(日付・記名・捺印)を頂いている。計画書の書式に入居者とその家族の主訴がなく、目標期間の記述がない。		介護計画作成には本人と家族の主訴は必要不可欠であり、書式に記入欄を設け、意向や希望をそのままの言葉または、日々の関わりから気付いた事を記述することが望まれる。計画書の内容は個別性を重視した作成が成されているが、到達目標になる期間設定の欄を設けることが期待される。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者それぞれの個別ノートを作成し、詳細に記述し、少しの変化にも対応できるように尽力している。介護計画の達成度は職員の気づきやアセスメント表で定期的又、状態変化に伴い見直しを行っている。今後はモニタリング表や、独自のアセスメント表の書式を作成予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が安心して生活できる為に、医療連携・病院受診や往診・入院時の介助(見舞い・洗濯物等)・リハビリ通院・家族の宿泊・訪問美容サービス・蓄熱暖房器による一定した温度や快適な空調管理等、多機能性に富んだ柔軟な支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは適切な受診が行える密接な関係を確立しており、24時間体制で相談や指示が仰げることができる。必要に応じて、認知症の専門医等、受診の支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年は1名看取りを行った経験がある。看取りに関する指針を明確にし、状態の変化に伴い、医師・家族・職員で話し合い、最善の方向を選んでいる。必要に応じその人のみの緊急連絡網を作成し、万全の体制で、食事はトロミ ミキサー経口までは可能であり、家族の宿泊にも配慮している。また、職員間での連携を図り、希望に沿った支援を実施している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴(特に男性による介助)や排泄時の羞恥心には十分気配りをして、声掛けや介助には入居者の気持ちを大切にしている。また、ホーム便りでの個人名はイニシャルで記入し、掲載する写真については家族の了解を得ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室やリビングは日当たりが良く、入居者は朝のお日様と一緒に目覚めている。入居者その人の生活歴を把握しての声掛けにより、したい事を自由に過ごして頂き、計算や読書の好きな人等、得意分野を活かした、残存機能に沿った支援を実践している。		

グループホーム 古里の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業を通じて、入居者の力を発揮できる場面(牛蒡そぎ・茶碗拭き・盛り付け・後片付け等)作りをしている。時にはホームの畑の作物が食卓を飾る事があり、入居者の楽しみである。また、広い食卓では入居者と職員と一緒に語らいながら、楽しい家族団欒を思わせる食事風景である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的には1日おきであるが、希望があれば、入浴日にこだわる事無く支援を行っている。入浴拒否者には、時には体拭きで対応するなど、工夫をしながら清潔保持に尽力している。また、湯加減を見ながら1人ひとりの希望に沿った支援を実施している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の何人かが手伝いをする姿を見て、現在は出来る人は、茶碗拭き、洗濯物干し・たたみ、ゴミ箱作り等、自分の仕事としている。趣味としては読書・新聞を読む・計算等、得意分野で楽しんでいる。訪問時も時々歌声が聞こえており、楽しい生活が汲み取れた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事予定を作成し、不可能な時は変更しながら、計画的に毎月外出を取り入れ、介護度が高い人も一緒に実行している。初詣や季節の花見や買い物等、受診以外の外出にも努めている。また現在、ホーム周辺に散歩道を建設中で、今後は季節を感じ自然に触れ合いながらの外出の実現が楽しみである。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの横には会長の自宅があり、前面には併設のホーム、その横には事務所と、皆で見守り施設は行っていない。ホーム内も一目で見渡せ、入居者の同行が逐一分かる。入居者にとっても職員が常に見え安心して落ち着いて生活をしている。12月に移転したばかりで、ホームの周辺の転落防止柵は準備段階であるが、テラスを含め早急に設置予定である。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年12月に移転して来ており、以前の場所では消防署の立会いでの火災・避難訓練を実施している。毎月機器の点検を兼ねて自主訓練を実施し、地震・台風を含めた災害マニュアルを作成し、非常時に迅速に対応できるよう取り組んでいる。また、非常災害に伴う水・米・携帯コンロ等の準備をしている。新ホームでの訓練は3月に実施が決定している。		

グループホーム 古里の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1,200～1,400カロリーを目標として食事を提供しており、制限食には注意を払い、栄養士の指導を受けながら支援している。又、身体状況により、刻みや食べやすいように配慮している。食事や飲水量はシートに記録して、個別にチェックしながら不足しないように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム周辺は自然に囲まれ、季節は窓越しに感じる事が出来る。明るく広いリビングには食卓テーブルやソファを設置し、それぞれの居場所の確保がある。また、ペアガラスや蓄熱暖房器の設置により、常に20～22度で温度が設定され、空気を循環させ淀む事無く快適な空調であり、入居者の落ち着いた姿から居心地の良さが理解できる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は掃きだし窓で広く明るく眺めが良い。入居者は使い慣れた品や写真・仏壇・ベッド・コンテナ・箆笥等をそれぞれに持ち込み、洗濯をして干している人等、個性的な居室作りがされ、生活を感じる事ができる。		